

防災備蓄品 詰め合わせ提案

消防設備据え付けの田中工業



メッセナゴヤ2023
出展企業
11月8~10日

販売する防災
備蓄品

このころ、のりすけは、

企業・自治体向け 個別に最適商品を選定

商品名は「KOTIA 助(こたすけ)」と「NOR I助(のりすけ)」。レトルト食品、飲料水、毛布、簡易トイレなどを、A4サイズのに詰め合わせ、販売する。

マイナス20度から80度までの環境で品質を保つことができるクッキーなど、耐熱性に優れ、車載に適した商品を詰め合わせる。タクシー会社や、営業車を多く

消火栓など消防設備の据え付けを手掛ける田中工業(本社名古屋市中区栄5-2-3、田中宏二社長、電話052-338-1347)は、防災備蓄品の販売力を入れる。防災士の資格を持つ田中社長が厳選した商品を箱に詰め合わせ、企業や自治体向けに提案する。

導入先の業態や用途に合わせて、それぞれに適切な商品を選定する小回りの利く点が強み。すでに高知トヨタ自動車など約30社へ販売している。1月に開催される異業種交流展「メッセナゴヤ2023」で製品を周知し、年間200箱の販売を目指す。(酒井田梨央)

名古屋

情報は名古屋デスクへ
TEL052(561)5212
FAX052(561)5207
WEBでの申し込み
中部経済
検索

Happy Halloween
楽しいハロウィンと素敵な夜を
部屋セレクト
S-POINT
https://www.spoint.jp/

保有する企業に最適だ。田中社長は防災士としての専門知識を生かし、量販店にはない珍しい商品もメーカーから取り寄せる。加熱材を敷いて水を注ぐと、レトルト食品を温められる袋「ヒートパック」など、選りすぐった商品を常時約30種類そろえる。

商品の基本セットはあるものの、導入先の業態に合わせて中身を組み替え、かゆい所に手が届く備蓄品を提案するのが特徴。田中社長は「せつかく備蓄品を用意しても、役に立たなければ意味がない。お客さまへのヒアリングを必ず行い、適切な商品を紹介する」と力を込める。

価格はオープン。5箱か

ら購入できる。これまで、防災関連の展覧会へ出展するなど、約200箱売り上げた。今後はメッセナゴヤ2023を皮切りに、防災関連以外の展覧会にも出展する予定。防災意識の有無にかかわらず、広く訴求していきたく

考えた。同社は2009年設立。現在の事業比率は消火栓スプリンクラー、泡消火などの消防配管設備の据え付けが8割、防災備蓄品の販売が2割。